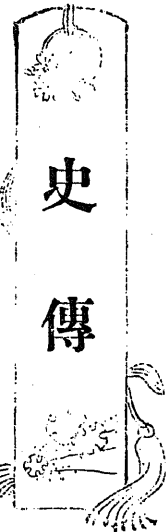


のもあります。英語の御判りの方はさう云ふ女の人、現にやつて居る發達史を參考する事も出来此外にブライエルと云ふ人の子供の心と云ふものも出来て居り、英譯にもなつて居り、日本譯にもなつて居る。それでも大凡やり方が判る又もう少し細かに進みましてこれから其日誌の中に書き込む事をせうして調べて行くかと云ふ事を考へねばならぬ。(つづく)

ふひき溜うすき氷の誠を

こゝろにかけぬ人ぞ危ふき



ヴィクトリア女皇の傳(つゞき)

鄭越生 補譯

母君ケント公爵夫人には、女皇の御健康につき、ひたすら御心配をそばし、しばし諸方に御轉地なさいました、此の頃折々御出でになりましたのは、ラムスゲートとマルヴェルンとでござります、勿論此の二個所は氣候が誠に溫和でありますので、よく女皇の御健康に相應したのでござりますせう。

そのマルヴェルンに御滞在の折の事でござります

したが、女皇には或る日御近郊を御散歩なさいま

した、折しも夏の初めでありまして、黄金色の花、

緑の若葉、乃至舞ひ狂ふ蜂蝶何れも女皇の御心を

慰め奉る景色のみでありましたので、女皇には、

御機嫌斜めならず、御愛犬を伴はせられて、彼方

に馳せ此方に分け入り、獨り興に入りて居らせら

れましたが、此の時不意に草叢の中より顯れ出で

たる一少女がありました、女皇には忙はしく少女

のもとに馳せよりましたまひ、

少女よ、お前氣の毒だが、此の犬を抱いて来て

くれぬか

と仰せられました、誠に御遠慮なく無邪氣で入ら

せらるゝことでございます、少女は見も知らぬも

のに、だしぬけに斯ることをいふ、如何にも妙な

事であるとは思ひましたが、むげに斷るも氣の毒

と思ひましたのか

かしこまりました、抱いて参りませう

と申し上げまして、犬を抱き上げ、女皇とともに

御話しなながら、いそぐとでかけました、まば

らくしますと少女には、左も疲れたらん風情にて

私は疲れてしまいました、御免を蒙ります

と申し上げますと、女皇には

疲れた？ まだお前はごく僅か外抱いて來ぬで

はないか

少女は

いへ十分でございます、殊に唯今伯母の處に要

事がございまして参るのでございますから、御

免を蒙りたらうございます、

女皇はうなづきたまひしがやがて

お前の伯母さんの家は何處？

と仰せられますと、少女は

つひ、その先きの山の下に見えて居ります、あの

の赤い色の家でございます

と申しますので、女皇は

そんなら、私もお前の伯母さんの家に遊びに行

かうさう駈けて行かう

と仰せられましたして、少女と手に手を取りあひ駈け

出して御出でになりました、この時母君と保姆と

は、女皇の後を認めて御出でになりましたが、保

姆は是を見て

殿下、も一御止めあそばせ

と着だしく申しますと、二人は歩を止め、ふり返

りましたが、少女は、殿下といふ聲をきゝて初め

て、こはかねて承り及びしヴィクトリア殿下にて

あらせられしか、知らぬ事とは云ひながら、無禮

を申し上げたる罪免れんやうなし、如何にせんか

と心を痛ましたので、女皇には少女の風を見てと

りたまひ、種々になぐさめられ、且つ母君は少女

の親切をいたはり少なからぬ金貨を御與へになり

ましたので、少女は有りがたくて御暇を申し上

げましたが、この少女は此後右の金貨を紀念とし

て奉掲し終身洪恩を忘れなると云ふ事でありま

す。

一千八百二十七年、女皇の御齡九歳の時の事を

記した書物がございます、今其中の一節を御記し

致しませう、此の書物はナイトと云ふ人の著でござ

いますすが誠によく寫してあります。

天漸く白けケンシントン城外の朝露未だ晞か

ず、此の時私は心地よく曉風に面を吹かせつゝ、

城外の大路を散歩致して居りますと、彼方に人

の一團が居りますのを認めました。はてな朝早くから何だらうと怪しみながらだん／＼近づきますと、こは如何に、ケント公爵夫人には女皇とともに新鮮なる空気を吸ひ玉ひつゝ、黄草原の上で、朝飯をめし上がつて居らせらるゝのでございしました、私は恐れ入りまして、直ちに駆け返りませうとも思ひましたが、ケント公爵夫人の御思召を恐察したてまつり、また女皇の美しき玉の如き御容顔と、時々溢れん許りの愛情を以て女皇と御話しし給ふケント公爵夫人の御様子拝し奉りては、なかく／＼に逃げ歸りもならず、思はず地に伏して拜しました。感にたへずして涙を催ふし身はぞく／＼と戦へるやうに覺へました、是か即ち美感に打たれたのでございませう、ケント公爵夫人が教育に御熱心

なる、誠に斯くの如し、私は公爵夫人及び其の愛女の幸福を祈り、さて後に神に謝しました、今の世にあたり、かゝる有り難き神聖なる教育及び其の教育の結果を、まのあたり見ることを得たる恩恵に向つて神に謝しました。

云々とありますが、誠に公爵夫人の御熱心なることは能く表れて居ります。(つゞく)

時間なく空に雲そふ五月雨に

のきばの梅に實さへこぼるゝ

野村望東尼

下村三四吉

明治の維新は、空前の盛事なり、蓋し多年養成せられたる尊王の氣風は、徳川幕府の盛時より已